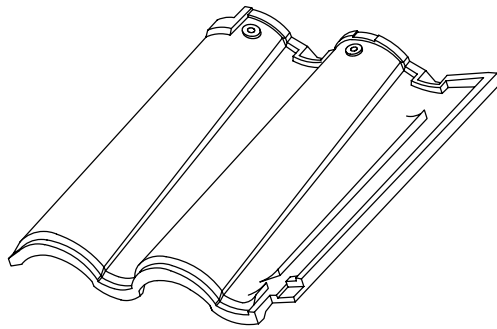


スーパースライ110
<サンレイ>

施工要領書



サンレイ

第 8 回改定版

株式会社 鶴 弥

注意事項

- 1.本資料は専門工事業者（瓦屋根）を対象としています。
- 2.本資料は当社の標準施工要領を示すものです。
（地域・ハウスメーカー毎に施工方法が異なる場合があります。）
- 3.本資料は法改正、商品改良のためなどにより予告なく変更する場合がありますので、施工の際には本資料が最新であることをご確認ください。

改定内容

【第8回改定】 2010.04

- ・スーパートライ110タイプ 全長350 352mmに変更
- ・新発売部材「トライ片流冠」の追加
- ・副資材品目の追加（壁止め板金、パッキン付ステン瓦ビス、調整式ステン棟金具、扇形雪止め金具）
- ・軒先メタルLの形状変更
- ・その他、誤記訂正・レイアウト変更・注意書き追加など

【第7回改定】 2009.09

- ・フリーエアー工法（コンパクトロール・P - 換）の追加
- ・役物瓦留め付け パッキン付ステンレス釘 の削除
- ・三角冠仕様の削除
- ・下葺工事の記載を追加
- ・ケラバ捨水切の幅変更 90mm 60mm
- ・軒先メタルの削除（形状変更(軒先メタルL)により、サンレイ軒プラ面戸の取り付けが不可となるため）
- ・すぎる部施工方法の追加
- ・棟金具の取付けピッチの変更 900mm 910mm
- ・サンレイ軒プラ面戸I型・L型の色変更 グレー色 黒色
- ・その他、誤記訂正・レイアウト変更など

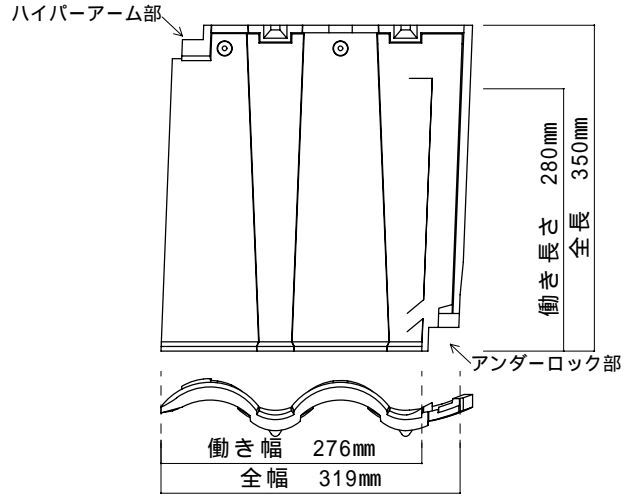
【第6回改定】

- ・乾式棟システム（カルむね）の追加 製品リスト・施工方法
- ・サンレイ雪止金具・雪止金具後付に「色調：銀」を追加
- ・その他、誤記訂正・レイアウト変更など

5. 製品リスト

スーパートライ110 サンレイ

全 長	350mm	全 幅	319mm
働き長さ	300mm	働き幅	276mm
重 量	2.9kg / 枚 (35.1kg / m ²)		
葺き枚数	40枚 / 坪		
梱包枚数	396枚 / パレット		



標準屋根勾配及びその流れ長さ

標準屋根勾配	4.0/10	4.5/10	5.0/10	6.0/10
その流れ長さ	8m	10m	12m	18m

【注】これはスーパ-トライ110サンレイを安心してお使い頂くための標準値です。

建築基準法 第2条9項に基づき国土交通省告示第1400号に瓦は不燃材料として定められています。

1100度以上の高温で焼き固められているので通常の火災時の加熱に対して、燃焼、変形、溶融、亀裂、有害なガスの発生はありません。

寸法は働き寸法

瓦一覧

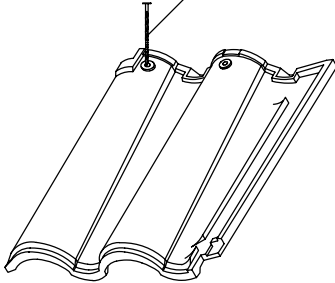
<p>サンレイ棧瓦</p>	<p>サンレイ雪止</p>		
<p>サンレイ兼用袖</p>	<p>サンレイ兼用角</p>	<p>サンレイ寸長兼用袖</p> <p>ティエレット・ティエイロ-の設定無し (チャコ色を使用してください。)</p>	
<p>7寸丸</p>	<p>7寸丸止 (紐付・紐無)</p>	<p>7寸カッポン</p>	<p>7寸菱巴 (右・左)</p> <p>(左袖に付くのが右菱巴 右袖に付くのが左菱巴)</p> <p>ティエレット・ティエイロ-の設定無し (チャコ色を使用してください。)</p>
<p>7寸三つ又</p>	<p>7寸曲り</p> <p>ティエレット・ティエイロ-の設定無し (チャコ色を使用してください。)</p>	<p>7寸四つ又</p> <p>ティエレット・ティエイロ-の設定無し (チャコ色を使用してください。)</p>	<p>垂れ付7寸丸 垂れ付7寸丸止</p> <p>図は紐無</p> <p>垂れ付7寸丸 垂れ付7寸丸止 (受注生産品)</p>

雨押え・水切部材			
<p>軒先メタルZ</p> <p>瓦座の形状に関係なく取付 瓦座の前に取り付け</p> <p>長さ 1829mm GLt=0.35</p>	<p>平行壁・流れ壁メタル</p> <p>長さ 1829mm GLt=0.35</p>	<p>谷樋</p> <p>長さ 1829mm スルス=0.3 GLt=0.4</p>	<p>流れ壁捨水切</p> <p>長さ 1829mm GLt=0.35</p>
<p>ケラバ捨水切</p> <p>長さ 1829mm GLt=0.35</p>	<p>壁止め板金(右) 壁止め板金(左)</p> <p>図は左 GLt=0.35</p>		
木材			
<p>フリーエア 桟木</p> <p>野地面通気工法で使用 滑り止付</p> <p>材質: ポリプロピレン 長さ: 2m 色: 黒</p>	<p>垂木 42×42 (針葉樹類) 樹脂棟垂木 43×43(ポリスチレン)</p> <p>図は垂木 42×42 長さ: 3m</p>	<p>樹脂鼻桟 40×35</p> <p>材質: ポリスチレン 長さ: 3m</p>	<p>桟木 15×30以上</p> <p>針葉樹類 防腐処理</p>
<p>笠木 15×90</p> <p>針葉樹類</p>			
副資材			
<p>コンパクトロール(F・J形)</p> <p>野地面通気工法で使用</p> <p>材質: アルミニウム複合素材+ ポリプロピレン製フリース 1巻: 10m×340mm</p>	<p>快適ロール 遮熱性透湿M-フィッ</p> <p>野地面通気工法で使用</p> <p>1巻 20m×1m 材質: ポリエチレン 重さ: 2.9kg(1巻)</p>	<p>ビーカン P-換 (M形用)</p> <p>棟換気部材</p> <p>材質: 塗装GL鋼板0.4mm 付属品: 本体/1本、加-/2本、湿式プレート/2本 フチルテープ/8枚、コースレッドねじ25mm/14本、 パッキン付ステンねじ65mm/3本</p>	
<p>エアフロー</p> <p>棟換気部材</p> <p>材質: ポリプロピレン EPDMシート+ブチル粘着材 付属ビス(SUS304) ビスL=20/4本 ビスL=51/4本 ビスL=75/2本</p>	<p>パッキン付ステンレスねじ</p> <p>(パッキン付ステン瓦ビス) (ステンブロンズねじ) 50, 75</p> <p>ねじ部 4.2mm SUSXM7</p>	<p>パッキン付ステンレス釘</p> <p>(ステンブロンズ釘) 55, 75</p> <p>ねじ部 3.4mm SUS304</p>	<p>ハイブリッドリング釘 サンレイ用</p> <p>(瓦用) #12×90mm</p> <p>SUS304</p>

各釘の使用箇所

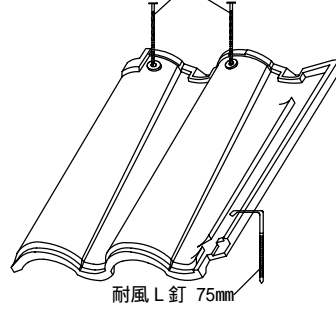
棧瓦 平部

ハイブリッドリング釘 サンレイ形用



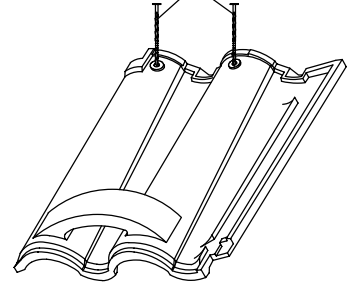
棧瓦 軒先部

ハイブリッドリング釘 サンレイ形用



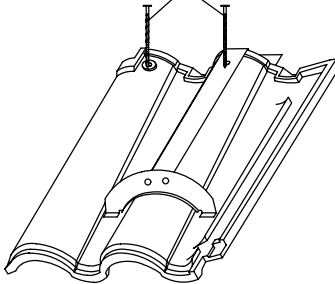
雪止

ハイブリッドリング釘 サンレイ形用



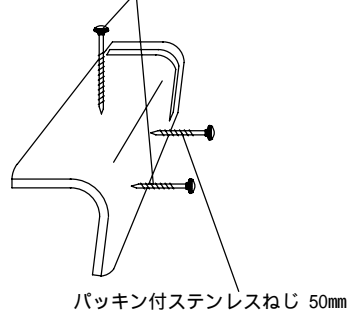
雪止金具

ハイブリッドリング釘 サンレイ形用



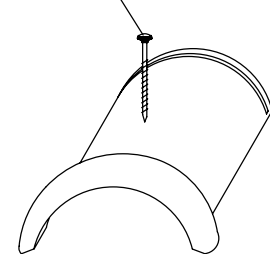
サンレイ兼用袖(角・寸長)

パッキン付ステンレスねじ 75mm



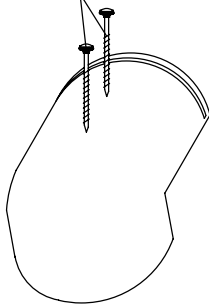
7寸丸

パッキン付ステンレスねじ 75mm



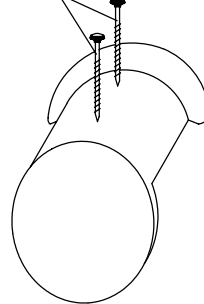
7寸カッポン

パッキン付ステンレスねじ 75mm



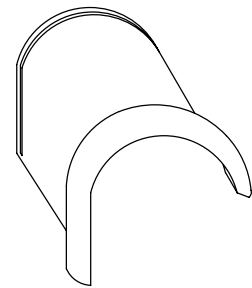
7寸丸止(紐付・紐無)

パッキン付ステンレスねじ 75mm



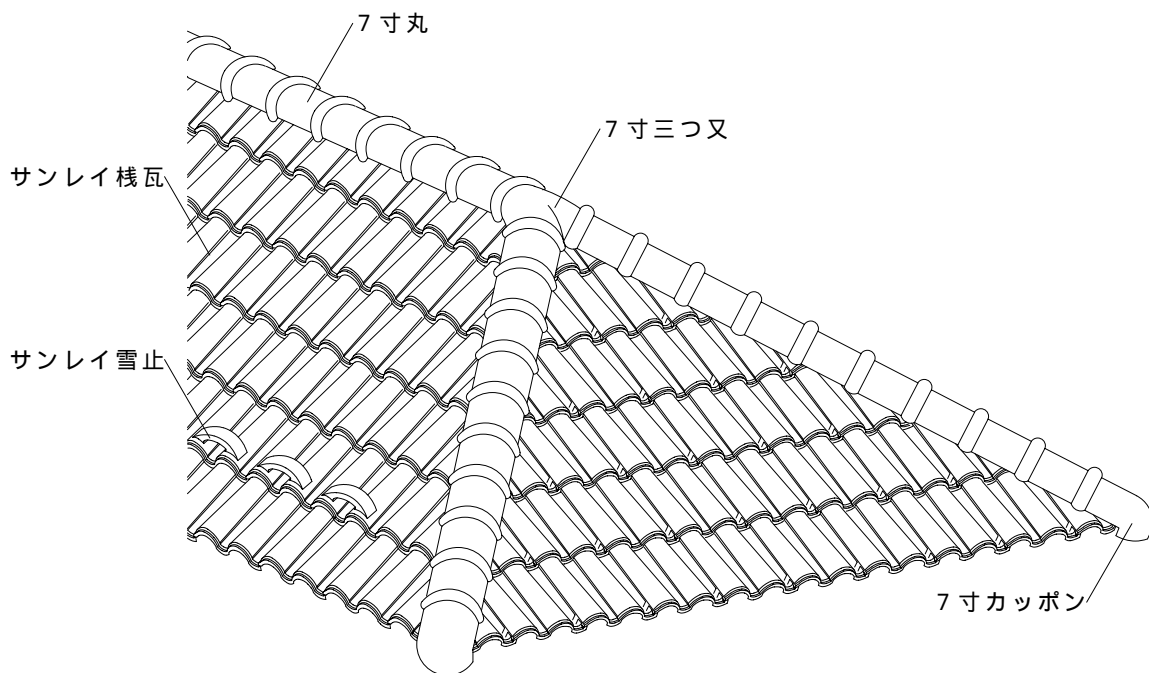
垂れ付7寸丸

垂れ付7寸丸止(紐付・紐無)

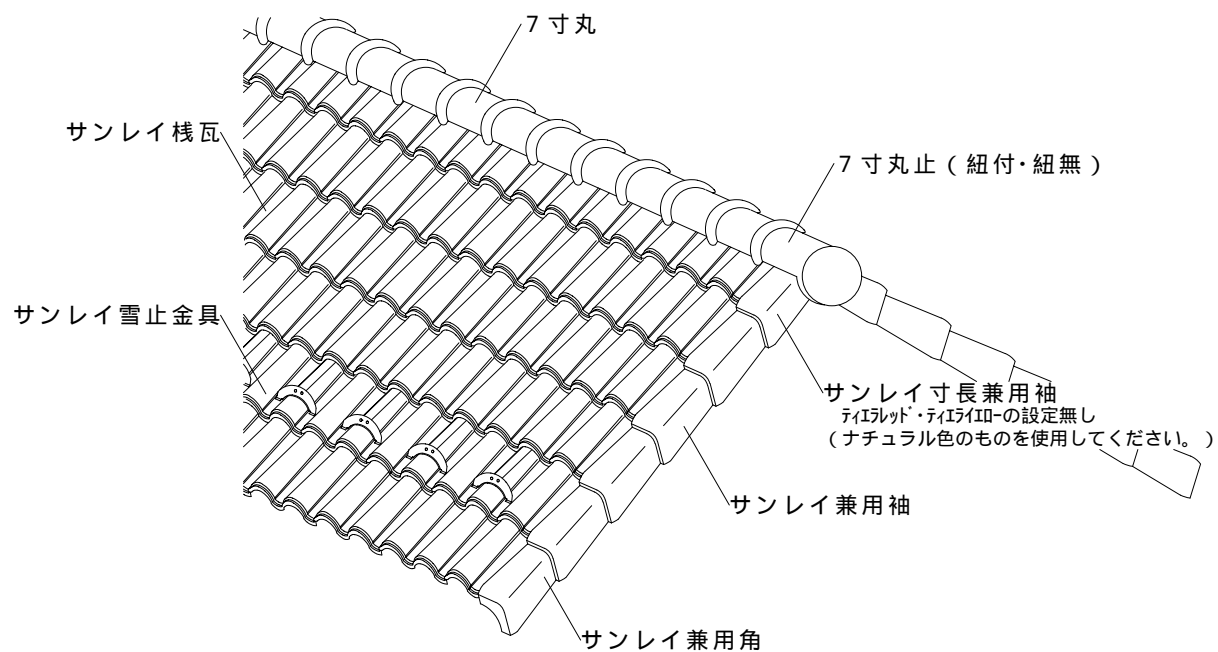


7. 役物使用箇所

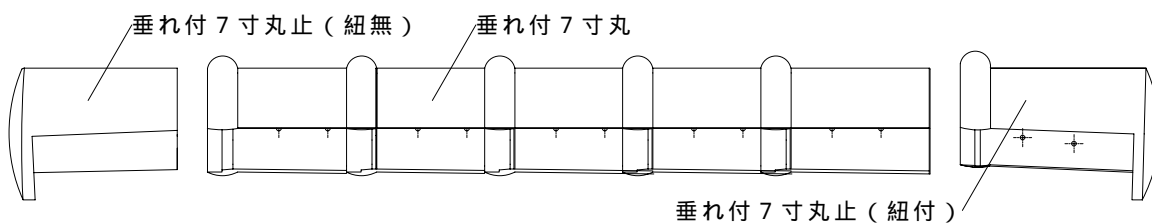
7寸丸 寄棟



7寸丸 切妻



7寸丸 片流 (棟部)



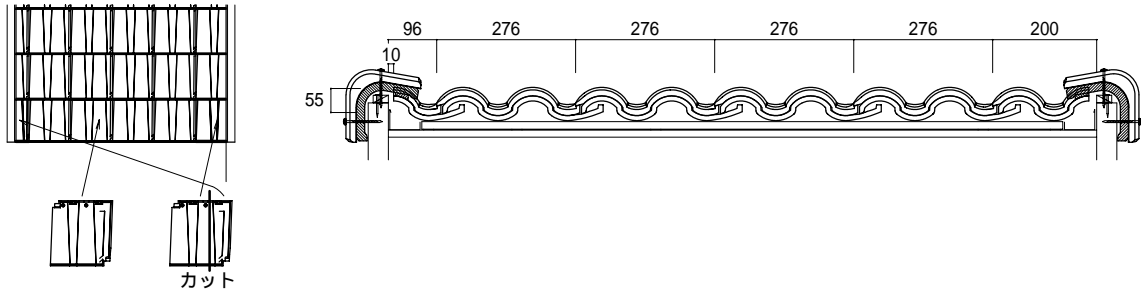
8 . 屋根瓦割寸法

野地の瓦割付

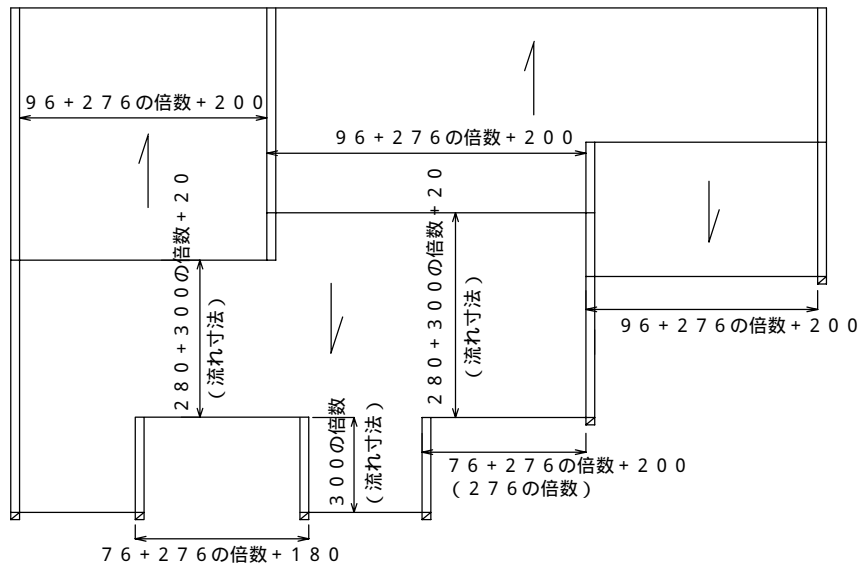
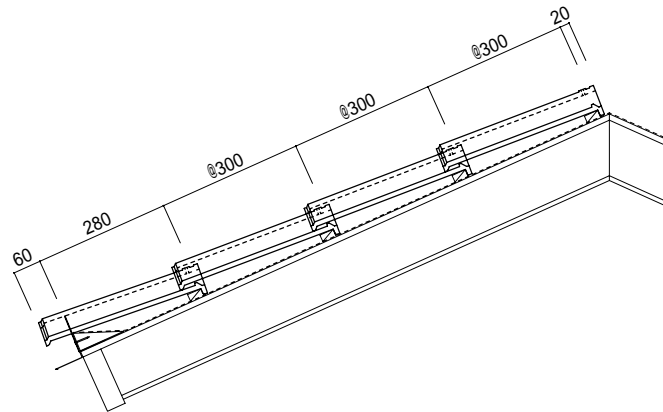
- * 野地板調整など瓦の割り付けをする場合は下記寸法によって割り付けてください。
- * ケラバ際、壁際、棟際の棧瓦は屋根の大きさに合わせ瓦を切断して施工することも出来ます。

注意 破風板内々の寸法

- * 桁行方向の野地寸法は、 $96\text{ mm} + \text{棧瓦の働き幅 } 276\text{ mm}$ の倍数 + 200 mm で決めてください。
- * 袖瓦のかぶりが棧山の頂点を越えるように割り付けてください。



- * 流れ方向の野地寸法は、 280 mm (瓦の出 60 mm の場合) + 棧瓦の働き長さ 300 mm の倍数 + 20 mm で決めてください。



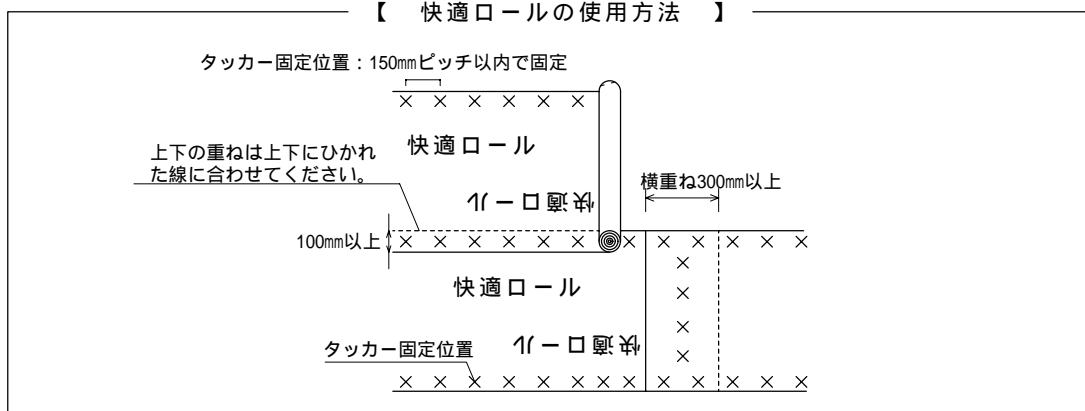
7. 下葺工事

防水材

- * ルーフィングは桁行き方向に横張りしてください。
- * ルーフィングの重ね、立ち上げ寸法は下記図及び表を参考にしてください。
- * 軒先は瓦座の先端まで張ってください。
- * ピンホールが出来るおそれのある所、破れた所は、ブチル系・アクリル系の防水テープやコーキング等で補強してください。（快適ロールの特性上、ゴムアス系のテープは使用不可です）

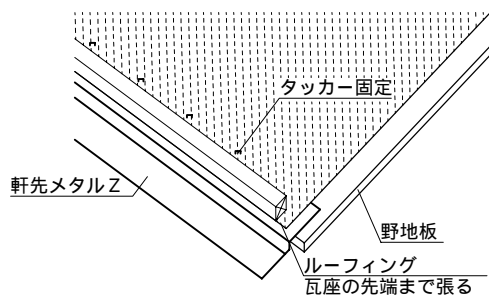
	流れ方向	桁行方向	大棟	隅棟	谷	壁際
ルーフィング重ね 立ち上げ寸法	100mm以上 重ねる	300mm以上 重ねる	棟芯より 300mm以上 重ねる	水下側で 250mm以上 重ねる	捨てルーフィング + 水上側で 200mm以上 重ねる	250mm以上 立ち上げる

【 快適ロールの使用方法 】

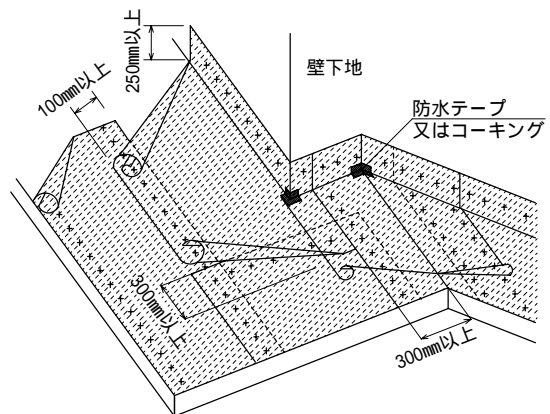


【 軒先部 】

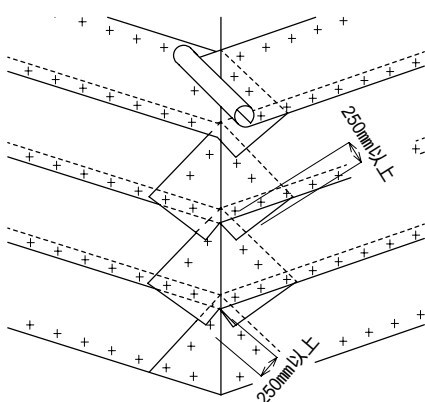
軒先1段目のルーフィングは雨仕舞いのため、横重ねを作らないよう、1枚もでの施工をお勧めします。



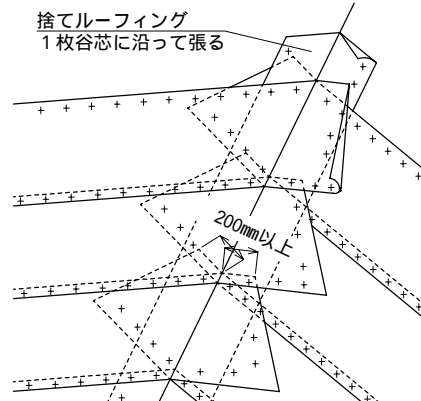
【 壁際・大棟部 】



【 隅棟部 】



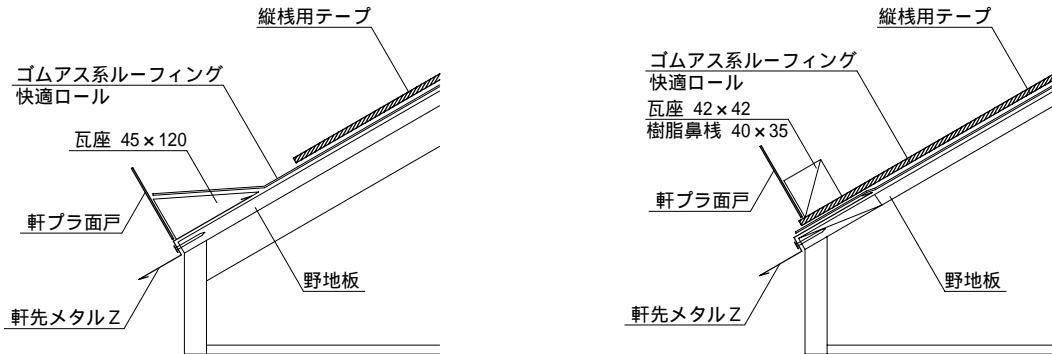
【 谷部 】



8 . 軒先・棧瓦の納まり

下地

- * 軒先の立ち上がりは40～45mmです。（瓦棧の厚み15mm使用の場合）
- * 軒先メタルZを取り付けます。軒先メタルZは瓦座を取り付ける前に取り付けてください。
- * 水抜き機能のない棧木及びルーフィングを使用する場合は必ず縦棧テープを使用してください。
縦棧用テープは瓦座の下に入れてください。

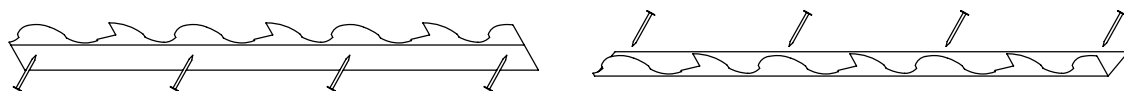


- * 軒ブラ面戸はI型又はL型を使用してください。
I型：軒先メタルZ施工後に、瓦座の頂点にレールの上端を合わせ取り付けます。
L型：瓦座の上に取り付けます。

サンレイ軒ブラ面戸I型

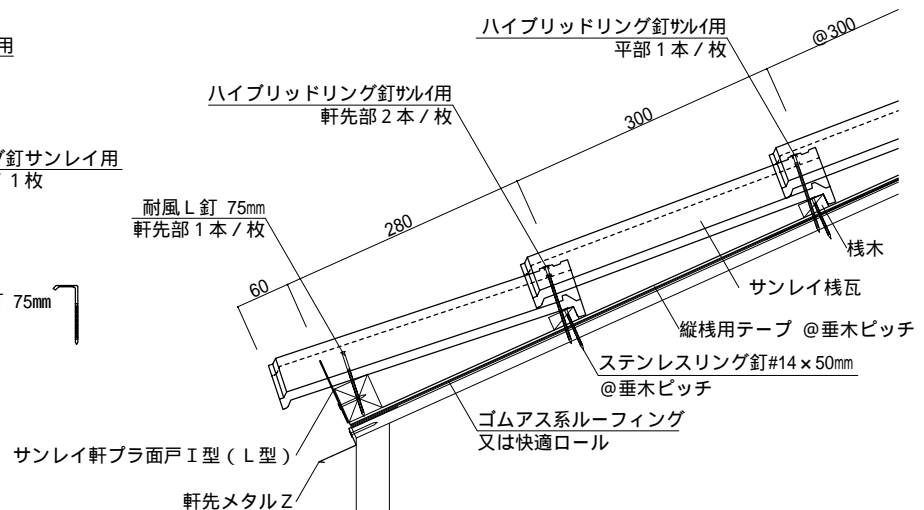
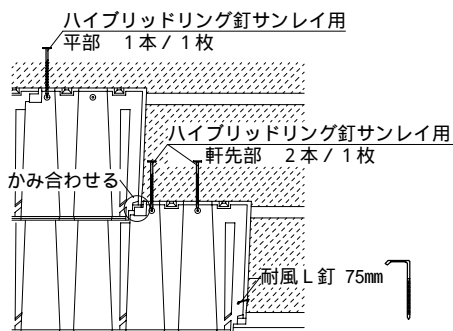
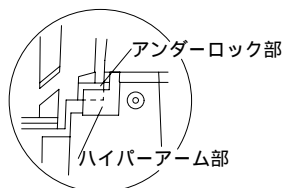
ステンレススクリュー釘32mm @276mm(1本に4ヶ所釘留め)

サンレイ軒ブラ面戸L型



棧葺き

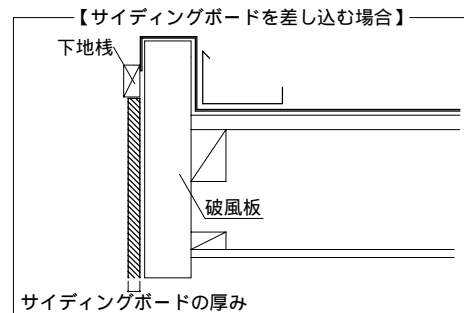
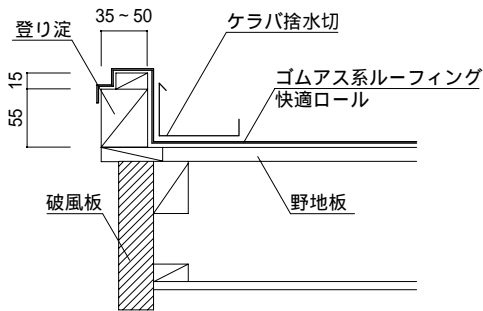
- * 軒先棧瓦の出は60mmを標準とします。
- * 軒先棧瓦は、ハイブリッドリング釘 サンレイ用を2ヶ所と、耐風L釘1ヶ所で固定してください。
- * 耐風L釘の取付は耐風L釘の押さえ部を水下に傾けるように注意してください。
（上向き、又はまっすぐにすると、雨水は耐風L釘を伝わるおそれがあります。）
- * 軒先以外の棧瓦は、下の棧瓦のハイパーアーム部とアンダーロック部をかみ合わせてください。
- * 平部の棧瓦は、ハイブリッドリング釘サンレイ用1本で左側（オーバーラップ側）の釘穴に固定してください。
- * 平部の釘打ちはスーパートライ施工要領書19.棧瓦釘打ち基準（p.34～36）を参照してください。



8 . 袖部の納まり

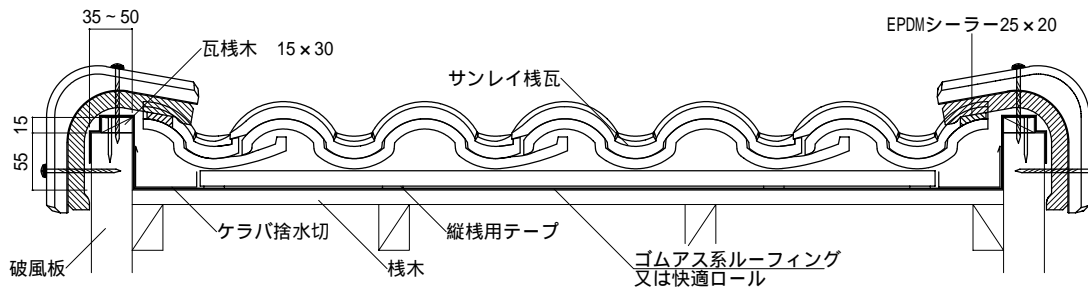
下地

- * 袖の立ち上がり材の幅は35～50mmにしてください。
- * 袖の立ち上がりは55 + 桧木15mmです。(瓦棧の厚み15mm使用の場合)
- * 破風板にサイディングボードを差し込む場合は、破風板面と袖瓦取り付け面の間を、ボードの厚み以上確保するように注意してください。(桧木15×30などを破風板に打つ。)
- * 袖際にはケラバ捨水切を使用してください。



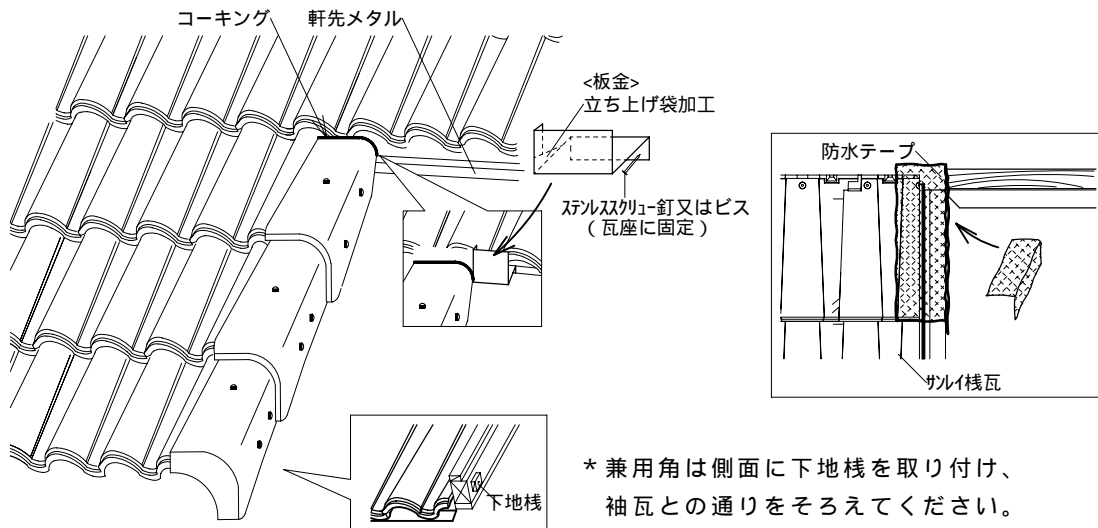
納まり

- * 袖際の桧瓦の上にEPDMシーラー25×20を貼ります。高さが足りない場合はシーラーを2重貼りにします。
- * 袖瓦は側面よりパッキン付ステンスねじ75mmと50mmとで2ヶ所、上面よりパッキン付ステンスねじ75mm 1ヶ所で固定してください。



すぎる部

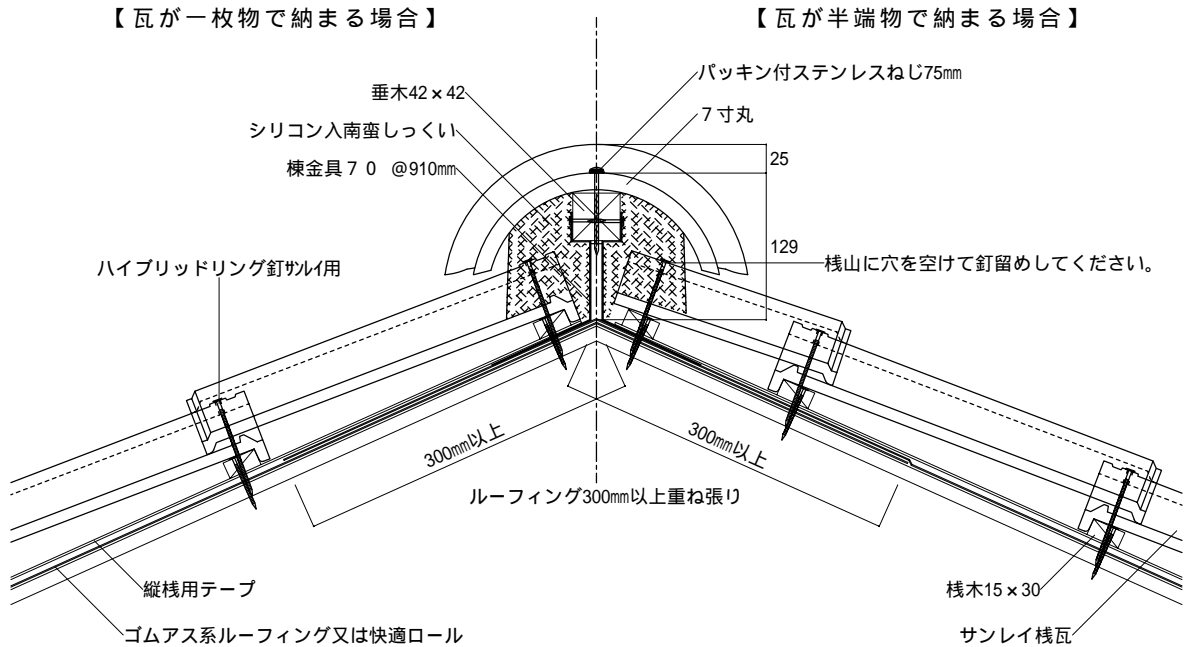
- * すぎる部のケラバ捨水切は桧木(上端)と同じ位置まで施工し、上端は立ち上げ加工してください。
- * すぎる部最上段の桧瓦を施工後、下図のように防水テープを貼ります。
- * すぎる部最上段の袖瓦と軒先桧瓦先端の隙間はコーキング処理してください。
- * 雨水が樋に入りにくい場合、板金(下図)を袖際に取り付け雨水を樋に誘導してください。



9 . 棟部の納まり - 湿式工法

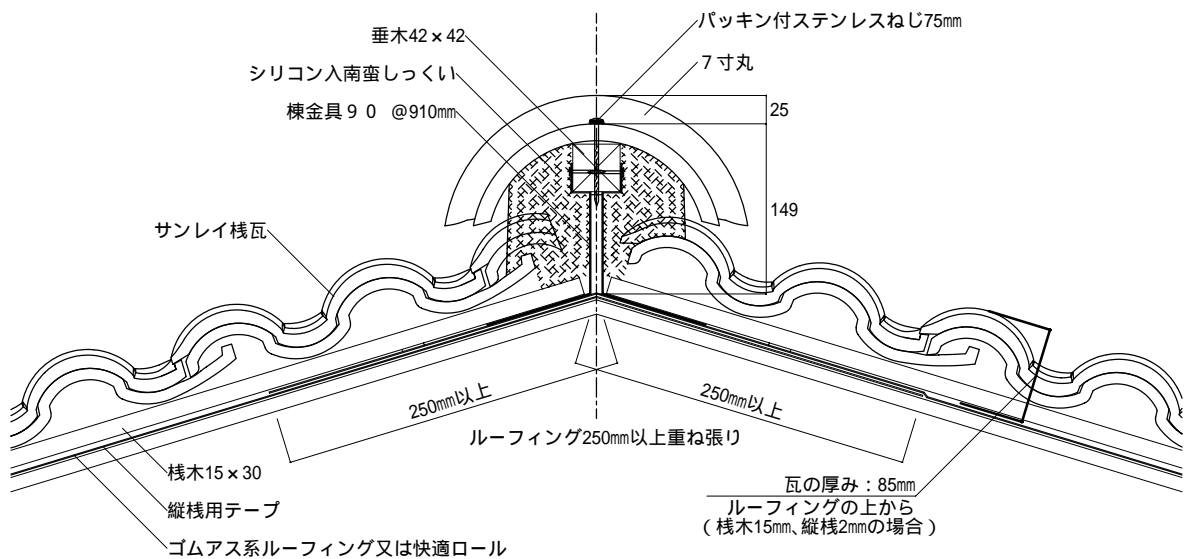
7寸丸 大棟部

- * 大棟の芯を出し棟金具 7 0 を910mmピッチにて取り付け、垂木を棟金具に釘で固定してください。
- * 棟芯にシリコン入南蛮しっくいを入れます。この際、冠瓦の幅より30mm程度ひかえてください。
- * 大棟の通りに注意して、垂木に7寸丸をパッキン付ステンレスねじ75mmで固定してください。
(巴はパッキン付ステンレスねじ75mm、2本で固定する。)



7寸丸 隅棟部

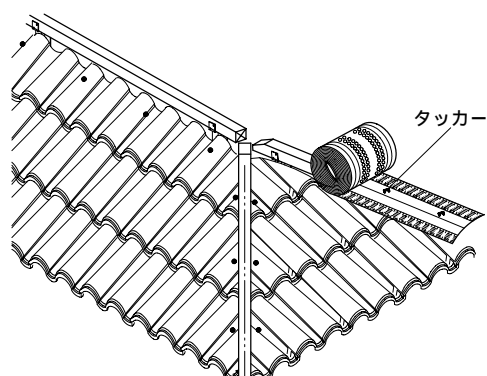
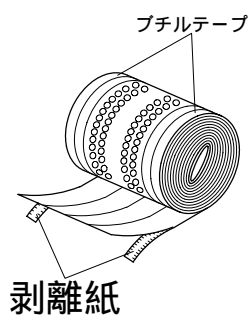
- * 隅棟の芯を出し棟金具 9 0 を910mmピッチにて取り付け、垂木を棟金具に釘で固定してください。
- * 棟芯にシリコン入南蛮しっくいを入れます。この際、7寸丸の幅より30mm程ひかえてください。
- * 隅棟の通りに注意して、垂木に7寸丸をパッキン付ステンレスねじ75mmで固定してください。
(カッポンはパッキン付ステンレスねじ75mm、2本で固定する。)



1 2 . 棟部の納まり - 乾式工法 (フリーエア－工法)

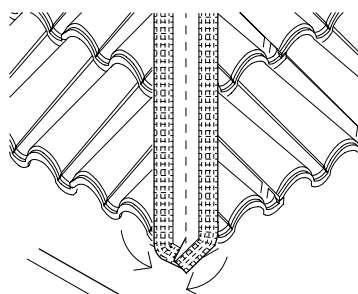
施工手順

- * コンパクトロール施工前に、必ず棧瓦のホコリ・瓦粉を払ってください。
- * コンパクトロールの中心線を棟垂木の芯に合わせ、タッカーで仮固定しながらロールを伸ばしてください。
- * コンパクトロールの両端の剥離紙を取り、プチルテープを瓦面に指圧で密着させてください。コンパクトロールのアルミスリット部は変形自在です。伸ばしたり変形させたりしながら瓦形状に密着させてください。

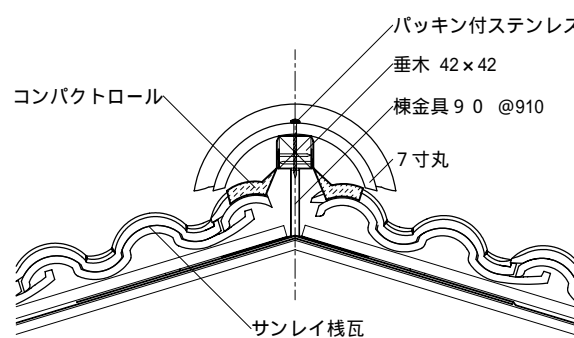
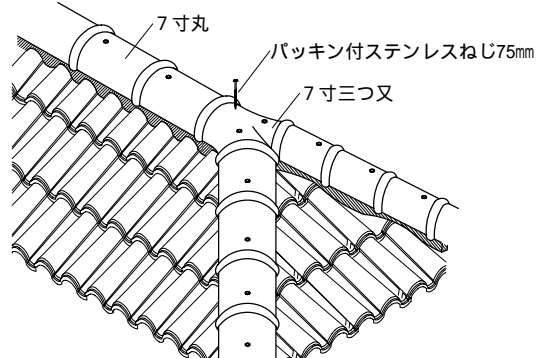
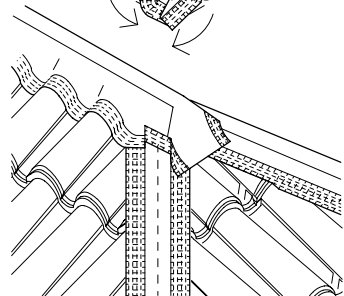


- * 隅棟先端部、棟部（三つ又部、巴部等）はコンパクトロールを折りたたみ、小口を塞いでください。
- * 冠瓦をパッキン付ステンレスねじ75mmで固定してください。

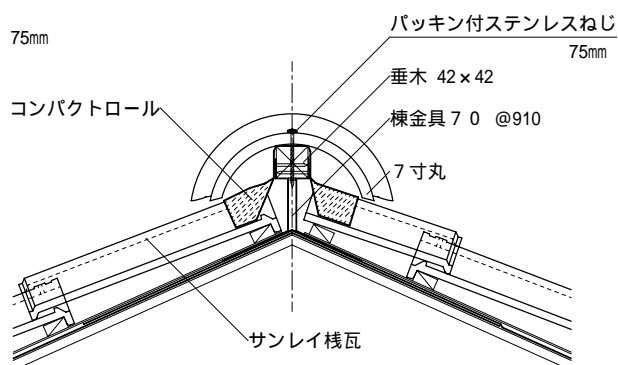
【 隅棟先端部 】



【 棟部 】



【 隅棟 】

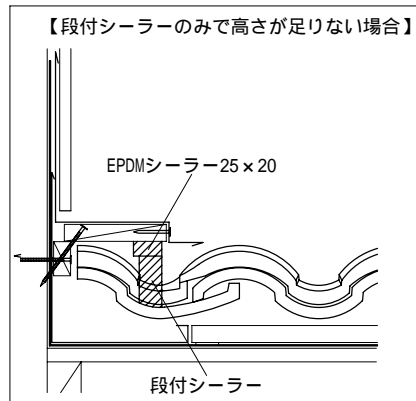
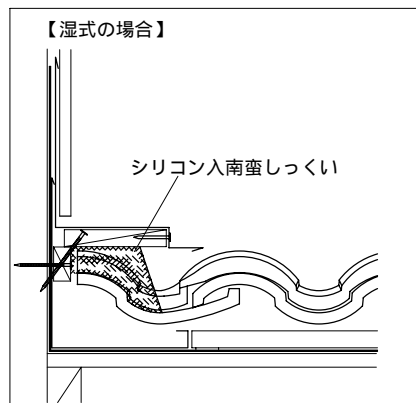
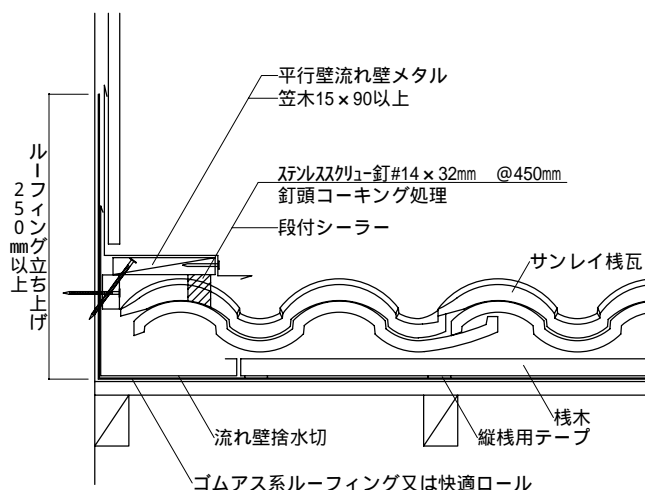


【 大棟 】

1 3 . 壁際部の納まり

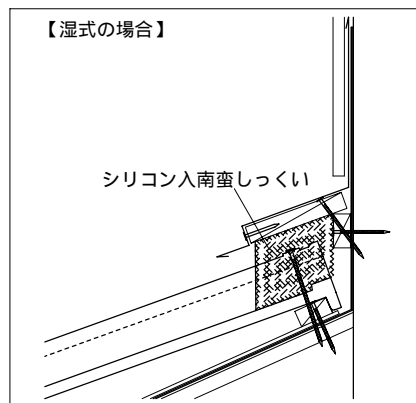
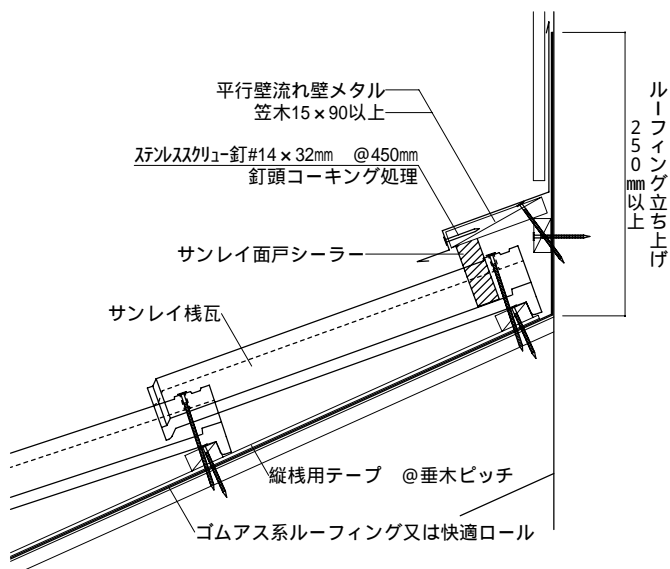
流れ壁際部

- * 壁際のルーフィングは250mm以上立ち上げてください。
- * 流れ壁際は流れ壁捨水切を使用してください。
- * 段付シーラーを1段毎に密着させてください。段付シーラーのみで高さが足りない場合は段付シーラーの上にEPDMシーラー25×20を貼ってください。
- * 平行壁流れ壁メタルを、笠木にステンレススクリュー釘32mmで固定してください。ステンレススクリュー釘の釘頭はコーキング処理してください。
- * 湿式の場合はシリコン入南蛮しっくいを使用してください。



水平壁際部

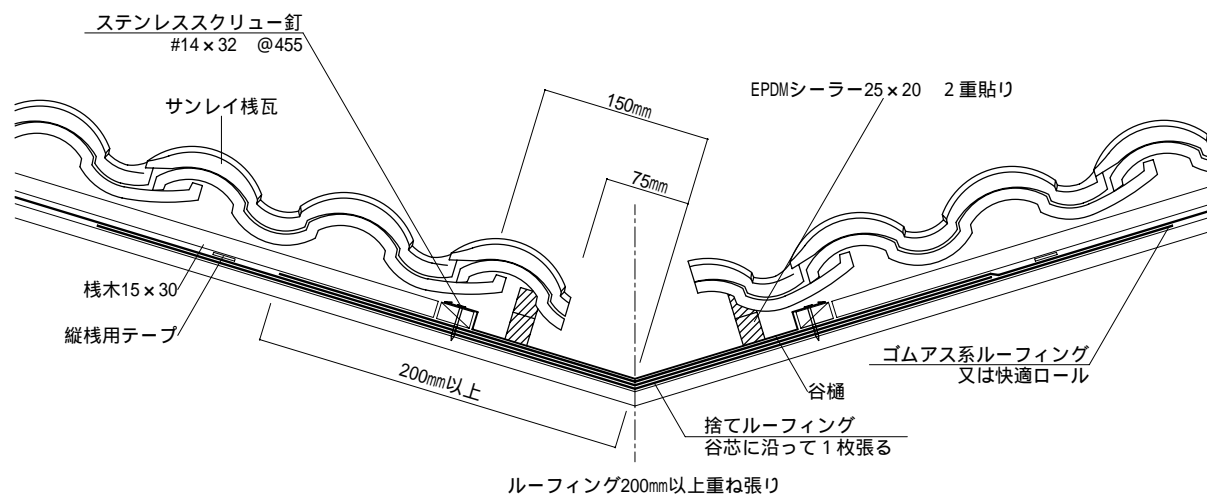
- * 壁際のルーフィングは250mm以上立ち上げてください。
- * 壁際に半端の椽瓦がある場合はレベルを調整し、椽山にドリル加工で穴を開け、釘で固定し、ズレを防止してください。
- * 椽瓦のホコリを払い、サンレイ面戸シーラーを密着させてください。
- * 平行壁流れ壁メタルを笠木にステンレススクリュー釘32mmで固定してください。ステンレススクリュー釘の釘頭はコーキング処理してください。
- * 湿式の場合はシリコン入南蛮しっくいを使用してください。



14 . 谷部・片流れ部の納まり

谷部

- * 谷樋は、ジョイント部は100mm以上重ね、コーキング処理してください。
- * 谷部の棧瓦は谷芯から75mmの位置で切断してください。
- * 加工した半端の棧瓦は釘打ちしてください。特に小さくて釘打ちできないものは、銅線又は瓦用接着剤で固定してください。



片流れ部

- * 棟の通りに注意して、破風板に垂れ付7寸丸をパッキン付ステンスねじ75mm、2本で固定してください。
(垂れ付7寸丸止もパッキン付ステンスねじ75mm、2本で固定する。)

